

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3070102557		
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会		
事業所名	グループホーム 紀伊てまり苑		
所在地	和歌山市西田井224番地 (電話) 073-462-6020		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52番地		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.2

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックもり	森医院	中西歯科医院
---------	---------	-----	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し外れた田園地帯の一角の広い敷地内に、同法人が経営する建物が幾つかありグループホームは一番奥の三階建ての一階に位置する。門から玄関までのアプローチには手入れの行き届いた可憐な花が咲き入居者や訪問者達の心を和ませる。職員は入居者を人生の先輩として尊敬し、その人らしく生き生きとした暮らしが出来るようさりげなく気を配り支援している。入居者、職員共に入れ替わりが少ないため馴染みの関係が保たれ、穏やかに落ち着いた雰囲気の中、それぞれのペースで過ごしている。地域との関係も、運営推進会議を定期的開催するなど積極的に、ボランティアの参加がふえたり、地域の人々に認知症の理解も深まったりと、より良い関係作りがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で更に地域に密着したグループホームとして期待するとの指摘により日常的な買物や、図書館の利用を始めた。そこで子供達との交流も生まれ、地域のボランティアを積極的に受け入れ、併設の特養と合同ではあるが、介護教室も開かれたりと、地域との敷居を低くする試みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は絶えず話し合いや相談の場を設け、評価の意義を理解しようと努めている。今回の自己評価を更なる気付きの場とし、より質の高いサービスに結びつけて行こうと職員一同考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は自治会や民生委員、家族らがメンバーである。討議内容は、地域、ホームの行事への支援方法や家族との意見交換、認知症についてなど多岐にわたっている。会議に参加している人は、地域の人との橋渡し役となり、認知症に対する理解が地域の中で深まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は近隣に住まう人が多いため、月に何度も訪れる。その都度職員は近況報告や運営推進会議の報告をして、また家族の苦情、不安にはきちんと伺う姿勢を貫いている。家族同士もホームの行事に参加した時などに交流している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の「紀伊文化まつり」へは毎年出品を行うなど、積極的に参加している。図書館にも通い始め、子供達との新たな交流も始まった。花壇や菜園の植え付け、草抜きにも、地区のボランティアの参加が活発である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より独自の理念を作成している。「自分らしくを大切に」「地域社会に出かけ社会との関わりを持てるよう」「サービスの質の向上」等地域密着型サービスの役割も理解された理念である。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝職員全員で 玄関や事務所に掲げてある理念を読み上げ、その中から1つをその日の重点項目とし、職員一同が実践することを心掛け、理念の反映に努めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年の外部評価の改善点を踏まえ、コミュニティセンターや図書館に出掛け、そこでの子供たちとの交流も生まれた。ホームは田園地帯にあり、田植えが始まると農家の方との会話を楽しみ、地域の「文化まつり」への出品は毎年かさかさ行っており、今年は小袋を制作し始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は絶えず話し合いの場を持ち評価の意義を理解しようと努めている。前回の評価を受け、更に地域に密着したグループホームになるよう取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会や民生委員、家族等がメンバーとして、2ヶ月に1度開催されている。推進会議の内容、意見等は全て家族に報告している。参加した地区の方々は地域の人との橋渡し役となり、認知症に対する理解が地域の中で深まってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターからは相談される立場だが、市担当者へは、こちらから積極的に働きかけていないため、運営推進会議の参加もなく、日頃は行き来する関係にはなっていない。	○	地域住民ばかりでなく、行政との意見交換も必要である。運営推進会議への参加を積極的に働きかけ、共に取り組んでいくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近隣に住んでいた方々が大半なので、家族の訪問も頻繁にあり、来所時は必ず家族の方にご本人の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会の都度、管理者から不満、苦情などを聞いている。家族より、朝玄関の鍵をしないようにとの要望が出され実行したり、外出を増やしてとの要望により、図書館へ行ったり遠足行事など行い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は少ないようだが、新たに加わった職員とは1日も早く入居者と馴染みになれるよう、他のスタッフは、入居者への言葉掛けなどに気を配って、全員でサポートしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として毎年、職員の年間研修計画を立てており、それに加えグループホームとしての特色ある勉強会の計画も立てている。そのため月2回は職員の勉強会の時間を設けている。また、外部研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、同業者との研修時などで意見、情報交換を行っている。運営者は、県外のグループホームとも連絡を取り合い、忌憚のない意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者、家族の見学も受け付けている。また同じ法人のデイサービスや訪問介護、ショートステイなど在宅のサービスを利用しながらグループホームの人たちとも交流があり、馴染みのある利用者の入居ケースが殆んどである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者は「人生の先輩である」という気持ちを常に持っており、それにふさわしいことば掛けをしている。できることは一緒に行うなど、介護する人、される人という一方的な関係ではなく、共に生活する関係である。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者ひとりひとりの、性格や暮らし方を把握しており、日常生活の中でその人の希望に添う場面作りをしている。困難な場合にはいくつかのアプローチを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員も参加して自由に日頃の様子なども伝え合いながら、本人、家族、関係者と話し合いがなされ、入居者が、自分らしく暮らせるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは毎月行い、家族には面会の都度報告している。状態が変化した場合、本人、家族と相談しながら直ちに計画の見直しを行ない、連絡ノートで申し送りしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域のイベントに出掛ける時などは、ボランティアの力を借りる。家族と一緒に遠足の帰りには外食を楽しむ時もある。外食したくない人には、おみやげを用意し、ひとりひとりの希望に即した支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、本人が以前からのかかりつけ医がある場合は、引き続き診察が受けられるよう家族と協力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年4月より、試行錯誤しながら当グループホームとして作成した「看取り伺い書」に、家族との関係が深まった段階で記入してもらっている。その後の話し合いでも書き換えられる状態にしており、皆で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に入居者のプライバシーやプライドを損ねない対応を心掛けている。個人情報については、外部から見えない場所で管理し、部屋を出るときは施錠している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは決まっているが、ひとりひとりのペースを大切にしている。朝遅くまで寝ている人には、その人の時間に沿って自由に起きてもらい、声掛けはしても強制せず希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買物、調理、片付けを行い下準備や味付けは入居者に任せる場面もある。食材はホーム内の菜園で採れた野菜も使い、食事を一日の大切な活動としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により入浴の時間帯を決めている。浴槽が広いので、個槽で、また二人でと自由に楽しんでいる。脱衣場の足下は畳の様な足触りで滑りにくく、風呂場の窓は大きく開かれ、外の田園風景が広がり開放的である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での野菜作り、食事作り、手芸など職員は入居者ひとりひとりの生活歴に配慮し、その人に則した楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店や図書館、買物に行ったり、ホームの周囲での散歩や、庭でのお茶の時間を設けるなど、それぞれの希望を叶えられるよう外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間から玄関の出入りが見守れるようにホームが設計され、鍵はかけていない。職員は外に出る人を、さりげなく後ろから見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火マニュアルを作成し年二回は、マニュアルの勉強会をしている。建物の裏には、貯水槽があり、水の確保は十分である。地域の人々は、この場所を災害時の避難場所としている。	○	設立当初は入居者も含めての防火訓練をしたが、今は職員のための訓練となっている。近くに消防署はあるが火災のみならず地震、台風など日頃からの対策も必要である。法人の敷地を避難場所としている地域の人達と一緒に訓練を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別ノートに水分量、食事量など記入している。食事をとらなかった人には、後で部屋に運んだり、おにぎりにしたりと工夫し、一人一人に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、イスが置かれ庭が眺められるようになっている。事務所の受付けを飾る手作りカレンダーの写真は菜園の野菜や庭の花が使用され、各自の部屋にも飾られている。食堂や廊下には入居者制作の季節感溢れる大きな作品があり、あたたかい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室は手入れされた南側の庭に面しており、明るく開放的である。部屋には使い慣れた家具の他、お気に入りの写真が飾られている。広い居室のため、家族も泊まって行く時もある。		